

納めLINE

令和4年度第3号

納めてください（標準語）・納めらいん（宮城の方言）・納めLINE（通信紙の名称）

◎ 自治大学校の税務専門課程（税務・徴収コース）を受講してきました



昨年度より地方税徴収対策室（以下「機構」という。）徴収第一グループで勤務させていただいております、池田辰紀と申します。

当機構では、参加市町村からお預かりした徴収困難事案に対応するため、検索を含む滞納処分に特化した取り組みを行っており、これまでの税務経験では掘り下げることができなかった貴重な経験をさせていただいております。引き続き、市町村職員の皆さまの協力をいただきながら、機構職員として徴収業務に邁進してまいりますので、よろしくお願いたします。

ここで、私事ではございますが、9月29日から10月28日までの1か月間、総務省の自治大学校（東京都立川市）

において税務専門課程（税務・徴収コース）の研修を受講してまいりましたので、簡単ではありますが、その内容について報告させていただきます。

自治大学校は、地方公務員に対する我が国唯一の中央研修機関で、高度な研修や専門研修を通じ地方公共団体の幹部となる職員の総合的な政策形成能力や行政管理能力を育成する役割を担う国の機関です。

今回、私が受講した研修は、講義やグループワークを通し高度な徴収技術を学ぶ研修であり、北は北海道から南は沖縄県まで、全国から54人が参加しました。コロナ禍でありながらも全員が無事に卒業できたことを嬉しく思いますし、全国に徴収経験豊富な仲間を作れたことも大きな財産になりました。

研修は、講義、グループワーク及びロールプレイングの3つの形態で行われ、徴収分野に関わる名立たる講師の方々から、地方税を取り巻く課題、租税にまつわる法律や関係法規、滞納処分に係る技術などの講義を受け、多くの新たな気付きを得ることができました。

グループワークやロールプレイングの研修では、研修生が各自自治体で培ってきた知識を融合させて課題の答えを導いたり、訪問や検索を想定した演習では、徴収担当職員と滞納者側に分かれ、役になりきって攻防を繰り広げるなど、自らの持ち味や個性を發揮しながら学ぶカリキュラムとなっており、面白みを感じながらとても有意義に受講することができました。

最後になりますが、今回の研修で改めて確認できたのが「学び方を学ぶ」ということです。受講し終えたことに満足することなく、これからも日々研鑽を続けていくことを忘れずに今後の徴収業務に活かしてまいりたいと思います。

◎ 職場見学会を行いました～オープン・オフィス in 宮城県庁～



12月21日（水）に、本県の業務に関心のある大学生を対象とした職場見学会「オープン・オフィス in 宮城県庁」が開催されました。当室にも4人の大学生が来室し、職員より機構の概要や家宅搜索などの滞納処分の状況について説明を行いました。質疑応答では、大学生から滞納整理だけではなく、公務員試験に関する質問も受けました。

今回の職場見学会を通して、大学生のみなさんには、少しでも県庁の雰囲気を感じ取っていただくとともに、未来を担う宮城県職員になりたいと思うきっかけの一つになっていたら幸いです。

◎ 状況報告（令和4年12月末現在）

今年度の宮城県地方税滞納整理機構の活動状況について、お知らせいたします。

○ 引受件数	402 件	引受金額（本税）	258,712,323 円
○ 徴収率	40.21 %	徴収金額（本税）	104,023,305 円
○ 本税完納件数	138 件	本税完納金額	71,052,382 円
○ 差押件数	144 件	差押金額	14,551,713 円

今年度目標である 25%以上の徴収率については、既に達成することが出来ましたが、今後も徴収の公平性と収入未済額の縮減を図りながら、引き続き適正な徴収業務を進めて参ります。

《ちょっとした はなし 「9.1%」》

「9.1%」、今回はこの数字を取り上げます。何の数字と思われますか？

ヒントは、毎回恒例になりつつある、各市町村から機構に派遣された職員に関する数字です。

答えは、現在派遣されている 11 人のうち、派遣前に徴収業務の経験があった職員の割合の数字でした。

つまり、現派遣生のほとんどは、機構に派遣されて初めて徴収業務に携わったこととなります。

かくいう私も徴収業務については右も左もわからない状態で派遣され、不安に思うことも多々ありました。

しかし、職員研修を通して徴収事務の基礎を学び、日々の業務から徴収技術全般の習得・向上にも取り組むことができたため、今では不安もなくなり毅然とした滞納整理ができていますと実感しています。

なお、機構では、使命感と責任感を持って各担当がそれぞれの業務に当たっていますが、常にチーム全体で情報を共有し、意見を出し合い、それを踏まえて搜索等の活動に当たっています。また、各市町村の徴収業務で活躍している機構OBと協力・連携することで「チーム宮城」として一体的に徴収困難事案の滞納整理に取り組んでいます。

引き続き、機構で得る様々な力を磨き続けることで、私と同じように初めて徴収業務に携わる未来の派遣生への架け橋になれるよう一人ひとりが努力していきます。

～ 2022年を振り返って（機構職員日記）～

4月から地方税の徴収業務に携わり、今思えば9か月もの時を経たという事実には驚いています。

この9か月間、機構では、滞納整理業務と並行して、毎月開催しているスタディミーティングや、様々な研修を受講する機会をいただきました。また、徴収のノウハウや知識を習得するだけではなく、一緒に働く仲間に分身の抱えている事案について相談し、一緒に考え、新たな手立てを切り拓くことで乗り越えられたことが幾度もあり、貴重な経験をさせていただきました。

当初、私が抱いていた機構に対するイメージは、日々淡々と一人で滞納整理業務を遂行していくものと勝手に思い描いていましたが、実際は、悩んでいる事案があった場合等は、チームで情報を共有しながら解決に向けて取り組むなど、チームが一体となって滞納整理に取り組んでいる職場でした。

なお、各担当の事案については、どんなアプローチで滞納整理を進めていくのかは、基本的には各担当の裁量に任せられています。そのため、独りよがりな滞納整理にならないよう、仲間と情報を共有し、様々な視点で議論し合い、各事案の固有事情をしっかりと把握及び検討した上で、最も適切と思われる滞納整理を日々模索しています。

残り数か月ですが、機構で学ばせていただいた技術をしっかりと活かして業務に励みたいと思います。

【ご意見・ご要望などはこちらにお願いします】

宮城県地方税滞納整理機構

（宮城県総務部地方税徴収対策室内）事務局

〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町三丁目8番1号

TEL：022-211-6681

FAX：022-211-2289



滞納整理機構

キャラクター

おさむね君